

コイノニア

今月は夏休み特集号として、3年生の皆さんが聖句を読んで、考えたこと・感じたことを紹介したいと思います。その聖句というのはもちろん、今年度の年間聖句です。礼拝の中でも何度も紹介してきましたが、今日は“友だちの声”に耳を傾けてみましょう！

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

共感する力は、介護福祉士としてとても大切なことだと思っています。たとえ相手が間違っていたとしても、傾聴して共感をしないと信頼関係を築いていくことができません。相手が喜んでいたら、共に喜び、泣いていたら共に泣き、相手の思いによりそえる優しい介護福祉士になりたいと思いました。“思いやり=愛”を大切にしていきたい。

バスケットにとって大事なものは「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」だと思っています。3年間、共にしんどい練習を乗り越えてきたので、試合に勝つと共に喜び、試合に負けると共に泣いたりできます。

他者の気持ちを理解することは困難ですが、嬉しい気持ち、悲しい気持ちに寄り添い、理解しようとする心を大切にしていきたいです。

この聖句のように、一緒に共感することのできる人がいることに感謝したいと思いました。

今思うと、親は自分の子どもに対して、この聖句と同じように、私が喜んだら喜んでくれるし、悩んでいたら話を聞いてくれるのですごいなと思った。

この聖句は介護における共感・受容と一緒にだと思いました。相手が喜んでいたら、わがことのように喜び、つらいことがあったなら、その気持ちに共感したりと、相手の気持ちに寄り添うことがとても大切で尊いことなんだと思いました。

思いを共有すると相手の思いが見えてきます。福祉の勉強で、「相手の思いに寄り添い共感する」「決して否定しない」という言葉を学びました。共感する・否定しない=尊重するということになります。共感だけでも相手に良い印象を与えられますが、それに尊重を加えることでより気持ちを考えるきっかけとなるのでこれからも続けます。

困っている人を助ける、それが「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」ということだと思う。そしてそれはとても大切なことだと思う。なので私は今後困っている人を見かけたときに助ける、そんな人間になっていきたいと思っている。

この聖句は何度も自分が助けられた心に残る聖句で、辛いとき、寂しいときにこの場所を読むと、前向きになれるのですごく助かっています。この聖句が、こんな自分にも実現してるのがすごく幸せだと思います。

うれしいことはみんなで喜び、悲しいことはみんなで泣くことは、共感し合い、知らない人に親切になれる第一歩だと感じた。他人と関わっているいろんなことを知って、共感する心を育てることが「隣人を愛する」ことにつながるんじゃないかと思う。

聖書・基督教の“はじめの一步”

#05 「旧約聖書と新約聖書」

私たちが毎朝の礼拝で読んでいる聖書は、「旧約聖書」と「新約聖書」に分かれています。旧約聖書は天地創造から始まるイスラエル民族の歴史の物語が、新約聖書はイエス・キリストの生涯や教え、イエスの弟子たちの活動が書かれています。

旧約聖書は、キリスト教徒だけではなくユダヤ教徒やイスラーム教徒も“正典”として大切に読んできました。キリスト教徒・ユダヤ教徒・イスラーム教徒を合わせると世界人口の半数以上になります。世界では“2人に1人”が聖書を大切に読んでいることになります。

JONAN's History #05

ふたがみ きじゅう 第二代校長：二神喜十



6月号でもお写真を提供して下さった、松山古町教会の教会員・門屋聖さんが今度は二神喜十先生のお写真を貸して下さいました。写真の女の子は門屋さんのお嬢さんですが、「二神先生は本当に子どもたちの面倒をよく見るお方で、いつも子どもを大切にされる人でした。」と当時の様子を教えて下さいました。

☆今日の「喜ぶ人と共に」大賞☆

今月は特別礼拝で奉仕をしてくれた聖歌隊・ハンドベル部（楽器はトーンチャイムです）のみなさんをご紹介します。歌も楽器も両方します♪文化祭やクリスマス礼拝に向けて練習中♪



部員募集中です！